1) ＰＭＤの機能ステージにおける強さ期間曲線について

国立岩木療養所
福　士　　明

前年に引き続きＰＭＤ患者につき強さ期間曲線（Ｓ－Ｄ曲線）を測定した。

＜結　　果＞

ＰＭＤ患者のＳ－Ｄ曲線は正常*Control* 群と比し大きな差はなく、大部分は正常パターンをとる。但し高度に障害されたものの中に、基電流が著しく高値（10*mA* 以上）を示し、Ｓ－Ｄ曲線も右上方に偏位する例もある。しかし、臨床的に障害度がかなり進んだものでも、ほとんど正常パターンをとるものが多い。

基電流について、正常は７*mA*以下と云われているが、ＰＭＤ患者の大部分が７*mA*以下であった。障害度の強い者の方が、７*mA*以内でも幾分高くでる傾向はあるが、かなり進行したものでも低いことが屡々ある。このことから、基電流の高さと障害度の相関があるとは云えない。

クロナキシーについて、障害度とは相関は認められなかった。

2) ＰＭＤ脊柱変形に関する研究

国立徳島療養所
松　家　　豊　　西　庄　武　彦
国立療養所下志津病院
斉　藤　　篤

ＰＭＤ側弯の発生過程及びその対策について発表してきたが、今回、生活様式の異った徳島療養所、下志津病院の脊柱検診を行ない対比することによって側弯対策の手がかりを得んとした。

＜調査方法＞

直接検診と坐位脊柱*X*線検査。

＜対　　象＞

徳島49、下志津92、　計141人、　Ｄ型、６～27才、平均14才、年令、ステージ構成は徳島に重症者が多い。（図１、表１）

徳島は装具歩行、洋式で立位生活が主である。下志津は這う、いざり移動で、和式、たたみの生活である。（表１）

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

前年に引き続き PMD 患者につき強さ期間曲線(S-D 曲線)を測定した。

＜結果＞

PMD 患者の S-D 曲線は正常 Contrl 群と比し大きな差はなく、大部分は正常パターンをとる。但し高度に障害されたものの中に、基電流が著しく高値(10mA 以上)を示し、S-D 曲線も右上方に偏位する例もある。しかし、臨床的に障害度がかなり進んだものでも、ほとんど正常パターンをとるものが多い。